

**第3回 佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事録**

出席者 (敬称略)	事務局	佐倉市文化課:猪股、松田、小林、小倉、須賀、遠藤 ランドブレイン株式会社(LB):宮脇、安武、佐藤、岡嶋、宇井
	委員	A:宮間委員、村田委員、柴田委員、石橋委員 B:外山委員、鶴岡委員、宮永委員(鈴木委員代理)、佐々木委員 C:濱島委員、サカモト委員、菅澤委員(金井委員代理)、小田委員(菅澤委員代理) D:小島委員、京極委員、慶田委員、樋口委員(松丸委員代理)

日時	R4.12.27 13:30~16:30	場所	佐倉市立中央公民館 学習室3
----	----------------------	----	----------------

資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・資料1:佐倉市の文化財の現況・課題と方針・措置について</li> <li>・資料2:佐倉市の将来像と方向性(案)</li> <li>・資料3:佐倉市の文化財の「現況・課題」、「方針・措置」の考え方</li> <li>・検討シート①②</li> <li>・参考資料1:佐倉市の文化財の概要と特徴</li> <li>・参考資料2:上位・関連計画、市民意識調査、佐倉学における現況・課題</li> </ul>
----	--

**内容**

佐倉市文化財保存活用地域計画の策定に向けて、将来像を見据えた佐倉市の文化財の現況・課題や、現況・課題を踏まえた文化財の保存活用に関する方針・措置について、ワークショップ形式による意見交換を行った。

**1. 将来像を見据えた佐倉市の文化財の現況・課題を考える**

市より前回策定協議会での議論を踏まえた「佐倉市の将来像と方向性」を提示しながら、「文化財の概要と特徴」、「佐倉市の文化財の現況・課題の考え方」について説明した。そのうえで、将来像を実現していくために、将来像を見据えた佐倉市の文化財の現況・課題について、班ごとに意見交換を行い、全体で共有した。

**【Aグループ】**

- ・まず、文化財が身近に感じられないということが現況として挙げられた。文化財同士の繋がりや広がりが目瞭然になっているものが存在せず、市民が文化財の所在をよく知らないために、身近に感じられていないと考えられる。また、指定文化財に偏りがあるという意見もあり、佐倉市の場合は建造物がかなり多いが、考古資料に関しては1点のみとなっている。
- ・今回の地域計画での方向性を踏まえ、そもそも「知らない」を「知っている」に変えていくためには文化財が身近である必要があるが、多くの人は特に知りたいわけではないということも考えられ、行政側からの押し付けになっていないかという視点でも考えた。そこで、一人一人の人生と繋がるキーワードなどが見つかることで文化財をより身近に感じられるようになり、佐倉の歴史のストーリーを自分自身の中で昇華できるような仕組みがあれば良いのではないかという話になった。例えば、順天堂記念館を訪れた子どもが、自分の中でストーリーを持ち、将来医者を目指してくれるようになるといったきっかけづくりが不足しているのではないかとこのところで議論は落ち着いた。

**【Bグループ】**

- ・まず、時代的にも距離的にも点在している文化財自体をどのようにまとめるべきかという意見が挙げられた。佐倉市の文化財は、概ね古代から近現代までの全ての時代が揃っていることが特徴であると前回協議会でもお話があったが、逆にそれが多すぎるためにテーマを絞れていないのではないかと。

- ・関連して、発信が弱いという意見が出た。色々な世代に訴求できるよう、SNS をさらに活用し、写真だけでなく動画なども発信していくべきとの意見も出ている。
- ・また、道が狭く車が入っていけないところもあるが、市内の様々な場所を巡ってもらう工夫として、飲食を含めた休憩施設や宿泊施設などの整備が挙げられた。
- ・一方で、体験自体も現状はなかなか弱く、一回きりで終わってしまうという意見も出ている。リピーターを増やすという視点で文化財自体への興味をもっと持ってもらうためには、文化財が一部の人のためのものだと思われがちであることや、保存にお金がかかるといった認識に関する課題を整理していく必要があると考えている。また、他の班でも出ているように、高齢化への対策も挙げられた。

### 【Cグループ】

- ・本グループでは、大きく3つの段階で整理され、1つ目は前提としての文化財の把握や調査、2つ目はその継承、3つ目は実際にその担い手となる人々が活躍できる参画の仕組みが課題として挙げられた。
- ・前提づくりでは、既に現況が把握されている文化財については更新を行い、把握されていないものについては、まずは「知る」ための調査を進め、その文化財が持っている本質的な価値を見出すことが挙げられた。
- ・文化財の本質的な価値を伝えるためには、関心を寄せてもらうための付加価値が説明できるよう、視点を変えた次世代への情報発信が必要となる。特に、佐倉学は市の中でも非常に面白い取り組みではあるが、どうしても「お勉強」になってしまうことから興味を持ってくれない人もいる。また、佐倉学で学んだ後のステップが不足しているという意見もあり、佐倉への関心がそこで断絶しないよう、次に繋げるための環境を整備していく必要がある。
- ・これらの前提と情報発信をしっかりと踏まえた上で、その担い手を確保するための参画の仕組みや、興味・関心がある人の受け皿の整備について意見が出た。一口に受け皿といっても、そのような場を作り出すことは難しいが、市内でも自治会活動やボランティア活動への関心が低くなってきている中で、それらを解決へと導く材料として文化財が活用できるのではないかという話でまとまった。

### 【Dグループ】

- ・佐倉市には色々な文化財があるが、一般の方の認知度はどうしても低い。その原因として、やはり博物館がないために情報の周知や発信力が弱いということや、佐倉市の文化財が「点」から「面」に繋がっていかないことなどが挙げられた。
- ・その課題を打開するためのターゲットとして、佐倉学を通じた子どもたちへのアプローチは必要であるが、学校側もギガスクールやSDGsなどの様々な新しい取り組みに追われ、佐倉学自体がマンネリ化してしまっているのではないか。そのため、それらを解消するための方策が必要であるという意見が挙げられた。
- ・また、高齢化の話も挙がっているが、所有者が文化財を維持管理していくためには、人材だけでなく財源が必要となる。文化財の活用によりお金を稼ぎ、またさらに注目されていくことで財源を確保できないかというところで議論は終わっている。

## 2. 現況・課題を踏まえた文化財の保存活用に関する方針・措置を考える

市より「文化財の保存活用に関する方針・措置の考え方」について説明した。そのうえで、文化財の課題を解決していくために、現況・課題を踏まえた文化財の保存活用に関する方針・措置について、班ごとに意見交換を行い、全体で共有した。

### 【Aグループ】

- ・情報発信について、Facebook やインスタグラムは主に30代から50代の女性がターゲットになることから、さら

に若い世代へのアプローチに関しては工夫が必要であると考えられる。

- ・一方で、行政側からの情報発信に対し、市民側からの発信が十分ではない。これは今後、文化財と市民をつなぐツールとして発展していくのではないかと。方法としては、文化財とそれぞれの人生を繋ぐキーワードによるストーリーづくりをしていくことや、子どもたちと一緒にチャート式で文化財を紹介するパンフレットなどを作るといった意見が挙げられた。
- ・また、これまで行政では様々な施策を行ってきたが、それらを一度評価して、良かった部分と悪かった部分を踏まえ、次の取組みに繋げていくことや、研究者と一般の市民を繋ぐ人材を育てることも必要ではないかという意見が挙げられた。

### 【Bグループ】

- ・先ほどのテーマで、情報発信の不足が課題として挙げられたため、主に SNS を使った情報発信をしっかり行っていくことが重要であり、インフルエンサーやテレビを通じた PR も有効ではないかという意見が出た。
- ・点在している文化財の繋げ方については、ひとまとまりの文化財をストーリー化して伝えていくなどの意見が出た。また、文化財の点による休憩所などの整備不足が課題として挙げられたため、近隣の自治体を参考に、市民が見学したいと思ったときに気軽に行けるような環境を作っていくことが挙げられた。
- ・佐倉学についても、お勉強要素を少し見直し、出前講座など行政側から仕掛けていくような取組みもあればいいのではないかという意見が出た。

### 【Cグループ】

- ・現況・課題の流れから、まず一番大切なことは「調査」であるということから話が始まった。調査には市民も参画することにより興味が深まり、さらに関わってほしいと思う人が増えていくことを狙い、大きなテーマとしている。その中で、調査団や資料館を作り、「知らない」から「知っている」への変化を促すことや、調査団は分野ごとのチームを作り、その分野に関わりたい人の窓口となるべきといった意見が挙げられた。
- ・C 班でも「情報発信」は非常に大きいテーマとなっており、市の歴史・自然・文化が1つのマップとして一元化された分かりやすいツールを作ることや、SNS や YouTube での情報発信にあたってはターゲットをセグメントしていくことが必要という意見が出た。また、中高校生が情報発信の主体になり得るということで、佐倉学の延長として生徒が佐倉について発信してくれるきっかけを作れたら良いと考えた。
- ・人を繋ぐ連携の方法としては、どうやって関わっていいかわからない人のためにボランティア窓口を確立することが挙げられたが、ボランティアの扱い方が難しいため、受け皿の体制については非常に大きい課題であると認識している。また、学校で単位として認められる学生ボランティアの利用も考えられる。
- ・建築物の利用方法については、例えばセレクトショップや飲食店などの形式に民間から参画できるような仕組みを作ってみること、また、財源確保の方法としては、クラウドファンディングなどが挙げられた。

### 【Dグループ】

- ・大きな結論は出ていないが、佐倉学に関するテーマがいくつか出ており、問題点もありつつ、基本的には活かそうという方向性であるため、コンテンツとしては正しいものと認識している。
- ・資料の公開や周知の方法については、博物館が無い現状としては、その場所ごとに展示・公開する方法がアイデアとして挙げられた。一方で、文化課の方からも小さな展示については話がいくつか出たが、その情報がなかなか伝わっていないというジレンマがある。その解決のためには、やはり中央で情報を発信する博物館などがあるべきだが、単に箱物を作れば良いわけではないという意見も出た。
- ・この議論では、「点」を活かすことがポイントとして挙げられた。文化財は、展示室に集めるのではなく現地にあるこそ意味があるが、やはり全体を統括して情報発信する組織、あるいは文化財の保存や学校教育への活用を考える場所として「博物館」というものがあると、全体が上手く回るのではないかという話をした。

・その他、地元で長く住まわれている委員から展示などに使える場所についての提案も出たため、新しいものでなくても、そこにある土地や建物を活かすことも城下町である佐倉の売りとしては良いと思っている。

### 3. その他

・文化財保存活用地域計画の策定協議員として、他の市町村の活動を見学してきたためご報告したい。今回、香取市の計画策定事業における第1回講演として行われた「香取市の仏像」に参加した。講演では、一般の市民に向けて、香取市の文化財の概要や市の考えなど、本日議論したような内容が発信されていた。私自身は立場に恵まれ、この場のように皆様とお話ができる機会があるため意識を持つことができているが、その意識を市民にも伝えていくことが大事であるため、香取市のような企画は良いと思った。また、富里市の岩崎別邸も訪問した。通り沿いで駐車場が広いため、よろしければ皆さまにもご訪問いただきたい。

以上

第3回 佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会 意見一覧(検討①:将来像を見据えた佐倉市の文化財の現況・課題)

班	グループ	検討シートの意見(佐倉市の文化財の現況)	検討シートの意見(解決すべき課題)	追加意見		
A	市民は何かどこにあるのか知らない	佐倉市民でどこにどんな文化財があるかわかっていない	どこにどんな文化財があるか、一目でわかるように佐倉市全体マップを作り、誰でもわかるようにする	知らない⇒知っている!	ほとんどの人は「知りたくないのかも」	押しつけがましいもの
	文化財が身近でない	「〇〇という歴史を「教えられる」場はあっても、市民が主体的に歴史(地域史)を叙述できる場が少ない(あるいはない) 「文化財」や「歴史」が関心を持たれやすい出来事、人物に偏っている	誰でも「文化財」に容易にアクセスできるようにする 地域の人々が「わがごと」として認識しにくい			
	文化財情報を一元化したマップがない	文化財と分かって何も内容や説明が無いものや不十分なものがあ	・ポイントを押さえて内容を表示する ・詳しくはその場でスマホ表示が可能とする	観光客は、選んで見てくれる方々(説明すれば聞いてくれる)	自分の人生とつながるキーワード⇒自分で文化財に当たって、そのストーリーを作り上げる仕組み	順天堂記念館 子どもが慣れるきっかけ
	文化財同士の広がりや絡み	文化財との表示がないものもある 地域での文化財間のつながりや相互の関連付け等をして、文化の広がり等を示す。	分布マップや現物に表示			
	指定文化財の偏り	指定文化財が近世以降のものを中心 近世より古い時代のものが知られていない	優先順位の選定の偏り? 情報発信不足	指定⇒考古資料1点 近世以前の歴史・文化への認知度が低い	調査はしているが発信×	文化遺産委員の専門的偏り ⇒調査も進んでいないかも
	知られていない文化財が多い	多くの文化財の存在が知られていない	周知手段・情報発信の仕方を考える、実行する	SNS以外の情報発信	SNSの発信は、自分の身近なものだと反応有 ⇒反響 Facebook:40〜50代女性、Instagram:30〜40代女性	
	文化財の管理が十分でない	維持・管理が不十分	補助金や収入源の確保⇒十分な予算の獲得			
B	点在する文化財	点在していることから分りづらい 各文化財がバラバラに存在しており、時代・性格等でくられたストーリー性が乏しい 城下町地区を除いて、各地に分散しており、見ようとしてもつながりがなく、見づらい それぞれの文化財がバラバラに存在して、つながりが感じられないため、ある一つの文化財に対する興味が満たされるところで終わってしまう	・見てまわりやすいようにモデルコースなどの作成 ・空き家などをオープンする等の情報をまとめていく ストーリー性を前面に出したブックレット、パンフレットを作成する(テーマ別に) 巡回ルートの整備(文化財のつながり)		ストーリー性を持たせたい時代、距離、広すぎて教えない、バラバラ	
	周遊するしくみ、しかけ	佐倉市に滞留する時間が短い 休憩できる場所が少なすぎる	見てまわるところは沢山あっても、市として宿泊施設が少ない。また、団体として来たときの食事場などがない 魅力のある町づくり	歩いてほしいが休む場所がない		
	情報発信	イバ(バンド)など成田に降り立っても佐倉市に降り立つことが少ない 民俗文化財を中心に、いつ、どこで体験できるかわからない 情報発信 意義や価値が知られていない。(どういった素晴らしさを持っているのか) 子ども達へ「佐倉学」がうまく伝わっていない	佐倉市の知名度が低いため、SNSなどを使い、市自体を知ってもらうことが必須 チャーターバス等を用いた見学会(遠隔地)を実施する SNS、インスタの活用 看板、携帯等を用いた紹介、周知	発信が弱い 坂も魅力		
	担い手不足	お祭りに関して地元住民の高齢化 所有者や担い手が高齢化してきている	お祭りで地域外からの参加者を募る 世代交代をスムーズに進める	高齢化		
	文化財への興味、周知	文化財に興味を抱きかけ、キーンとなるものが少ない 市指定文化財を知らない人が多い 一部の人のものと思われがち。(好きな人と関心がない人に二分しかち)	文化財に興味をもってもらう仕掛けを増やす 1ヶ月に1回、ゴミゼロ運動をして、市指定文化財の展示をしたらどうか。印旛地区と地区別でないか みんなに関わりがあるもの、身近なものであることを知ってもらいたい。	敷居が高い 文化財への興味		
	現状の把握	現状がよく把握できていない指定物件などもあ	所有者等と市の関係を密に			
	財源	保存等にお金がかかるものと思われる。(特に市内部や市民に)	それだけの「価値」があることをどう伝えていくか			
	前提づくり	市内の文化財について、国・県・市の指定・登録を受けているものは一部にすぎず、多くは知られずにあると思われる。市内にどのような文化財があるのか、その全体像を把握する必要がある。そのためには分野ごとに所在調査を行い、保存状況や価値を知ることが第一と考える。	調査の結果は保存する必要があるものを察しやすく、広く行政機関や市民に公表し、人知れず破壊・滅失・取壊すことのないよう対策を講じる。			本質的価値 = 関心を持つ価値に!
	視点を変えた情報発信	未指定文化財の存在があまり知られていない。(指定文化財と比べて) 歴史文化の裏づけとなる文化財(歴史資料・美術工芸品)の調査研究・活用が不十分	住民の方々が、文化財の存在を知りかけづくり	まずは知るための調査		
	次世代へ	文化財(ex.住宅等)が点と点になっている。 文化財だけでなく、それを含む地形などももしろいものがある 佐倉市または歴史文化そのものの魅力が十分に伝わっていない(若い世代) 指定の有無を問わず、貴重な文化財が市内に数多く点在する 文化財のありかたについて、現状「守る」「保護」施策を練っているように見受けられる	つないでいくための企画があるのか。 新たな視点を提案。 今後の文化財の継承を担う世代への浸透をはかる だれにでも目に留めやすく、かつ、分かりやすいマップ等の可視化できるもの(対象物、目的別) 活用を含めた、目的・目標の立て方	佐倉学で学んだ次のステップ? MAPをつくっても、別の「価値」がないと次に繋がらない	佐倉学 = 勉強! ⇒違う視点に	
参考の仕組み	地元で住民があまり足を運ぶことが少ない(ex.旧堀田邸、武家屋敷等) 所有者個人があるいは行政のみが、文化財の保護を担っていないか? 住民が文化財に関わりたいと思ったときに、文化財側に受け皿があるか?	足を運ぶきっかけになる企画をつくっていく。足で運びたくなるきっかけづくり 文化財を守っていくにあたっての仕組みづくり、役割分担とその周知 文化財と住民とが、どのように関わることができるのか。文化財ごとに整理が必要。			「守ってほしい!」と思っても参加できない 自治会が弱くなってきている	
D	周知・発信、博物館施設	周知が不十分 旧城下町以外の文化財の認知度がかなり低い。 幕末・明治期の歴史・人物ばかりが知られている 市内には国・県・市の指定・登録、市民文化遺産があり、新規も継続しているが、知られていない 認知度バラつきがある 認知度が低い	市の博物館施設が無い。ソフト事業や人材だけでも必要 地域住民との連携が必要で、参加を促し、盛り起こしを行うべき。 他にも歴史がある。周知不足 周知が足りない。認知度低い。 旧堀田邸、順天堂記念館、武家屋敷以外にもたくさんあることの周知 市民へのアピール、市民以外へのアピール	「博物館」の「学芸員」に市民や生徒も加わってもらうべき 「博物館」の「展示室」は分散型でもいい 「司令塔」があれば、お寺も保存・公開施設になる。「博物館」の「分室」的		
	文化財の捉え方	順天堂記念館、旧堀田邸、武家屋敷、城址公園などの文化遺産以外の文化財への認知度が低いため、全般的に市民の関心が薄い。 指定・登録文化財への片寄り(指定・登録自体が少なすぎる)。「点」の文化財があるだけで「面」としての「その場の佐倉学」が見えてこない。	地域ごとの文化財の掘り起こしが不可欠。市民に文化財を認知してもらうためには、地域住民への情報発信が重要。 未指定・未登録文化財を顕在化し、地域史の全体像が見えるようにする。他人事ではない「普通の暮らし」の歴史を理解できるようにする。	文化財の点を面にするため、文化財の掘り起こしにつなげる。 学ぶ、理解の場所、市内のお休み		
	佐倉学、子ども	「佐倉学」のマンナリ化 佐倉学が人物(幕末・明治)に偏っている 文化財が活用されていない	中学生へのテコ入れ、「楽しい」学びになるか 佐倉学の新たな活用 子どもをまきこむ	SDGsは、たとえば縄文時代の暮らしを知ることでわかる 佐倉学、順天堂関係で感染症対策の観点で考える 佐倉学を学ぶ(若年層)博物館が必要。旧今井住宅の庭に作っただろうかの提案を行ったことがある 他人以外の「佐倉学」バック	先生だけでは限界が。外部講師の確保。子ども達、次世代が大事 体験・活動ベースの佐倉学の推進 ソフト・人材⇒学校への協力	
	維持管理	所有者、管理者の高齢化 「歴史・文化のまち佐倉」であるが、旧城下町の景観・文化が保全できていない。城下町を感じない 歴史がある印象。しかし、正確に把握していない。多い?少ない? 所有者・管理者の維持管理に要する費用。理文調査経費の原因者負担	世代間の継承 文化を継承する人、愛着をもつ人を育てることで守れる。ここでは、他地区でもその文化・歴史的背景を学ぶことで文化財を知ることのできることで守ることができるのでは。 資料を上手に公開する方法は? 正しく理解する方法は?	文化財がめんどくさい出づ仕組みが必須。保存と両立	歴史、見えないものを見る	
	財源	管理が不十分。(例:佐倉城址公園が荒れている)	予算、管理体制の問題(行政の責任)	活用を進めて収入確保。保存と両立が大事		

第3回 佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会 意見一覧(検討②: 現況・課題を踏まえた文化財の保存活用に関する方針・措置を考える)

班	グループ	検討シートの意見(課題を解決するために必要な取組み)		追加意見	
A	情報発信	文化財と関わり、ただで、難しく考えちゃうので、小さい子どもでもわかりやすい説明	わかりやすい説明(子どもにも)	市の補助金申請など異なる分野の資料でこっそり発信	
		-発信力の弱さ -もっとSNSの活用	SNS デジタルの活用	SNSで発信されていると知らない見えない	HP、ちらしでは見えないかも…
		有名人に発信してもらう(佐倉市出身の)			
	情報の共有(市・外部・住民)	文化財とイベントをコラボ	既存の講座・イベントの活用		
		-講座・出前授業での紹介 -SNSを利用			
		-基礎作業として、文化財の事前調査、共有、公開 -行政・外部講師者・市民 -情報、伝言的	新しい図書館の活用	情報の構築への市民参加	
		市民が主体的に歴史を叙述できる"場" 新市史? (書く)、新図書館? (史料公開)、ヴァーチャル空間? (資料・文化財の発見、キャプション)	市史の編さんにも市民も!		
	進め方	研究成果と市民をつなぐインタープリター ex. 研究者 → インタープリター、職員、ボランティア → 作家、アーティスト、料理人 → 佐倉を舞台にした作品など → 市民	学術・研究者と市民をつなぐくみ → 市民		
		実用的デジタル、スマホ活用 スローリーディング文庫→ 音声→ トイレ(土産物)、所要歩数等も組み合わせる	歩いて回れるストリーフクリ	トイレ、教員、歩数…などの情報	
	B	発信方法	-文化財だということ知らなくていい -しかし、文化財という認識はなくて、身柄に感じてもらいたい(好きになってもらいたい) -そのために押しつけがましい方法で、人生とつながるキーワードを使って(設定として)身近に感じてもらおう。(好きになってもらう)	取組は小規模なものから	行政内での連携→周知大切!
ターゲット? 読者に足りない、偏りがある → あなたにお勧めのスポット					
環境整備		-具体策内容から、ステップ展開する。最初のステップは実証的検証のみとする。 -急のからないものから優先して実行、市民参加やボランティア組織等	取組は小規模なものから	行政内での連携→周知大切!	
		行政内での連携をより密にする。(課ごとの連携、情報誌との連携)	学校の空き教室の活用	展示スペースの確保	
所有所間交流		文化財(歴史文化財)の周知の取り組みの一つとして、考古資料(実物)の展示スペースの確保(学校、公民館、図書館…etc.)			
		今までの連携策を評価して、方向性を決める。次々と新しいことをやるのではなく(前)他市町の調査結果などの様に活用	既存の取組の評価		
アイデア		体験を通して文化財への理解が深まるよう、リアル、仮想両面から発信する(仮想を入口にリアルへ) (様々な事情でリアルが難しい方にも)			
		SNS、インスタ、動画で発信	SNS、動画		
環境整備		情報、佐倉市を知ってもらうために -若者への周知のためにもSNSは多いに活用 -検索を取り入れて(YouTube等)			
		まずはたくさんの人に興味を持ってもらえるような情報発信手法(SNSなど…)を → 視野を広げる、身近に感じてもらい、価値を理解してもらう	佐倉学 子どもが学べる場		
調査(歴史資料館がベース)	-保護、活用は担い手となるボランティアの養成 → 佐倉市民力アップ等と連携し、ボランティア養成講座を毎年度実施する。 → 一般社会層向けにボランティアの取り組みが不足している。 -佐倉学「出前講座」…学校や地域の公民館等にこちらから出向く -「佐倉学」を図書館を活用して各ボランティア団体に伝えてもらう	佐倉学 子どもが学べる場			
	体験型など法と点を近づけるとか作っていく。また、従来のツールをやることできるか(今はバス、車) -市民連携をふまえて、行政だけでなく、民間からも意見などをもらう(サウンディング) -たとえば、つなぐ足として電動キックボードなどの導入	点をつなげるツール、ストーリー -時系列、解説			
点を活かす	見学、食事等組み合わせた有料の「歴史・文化財ツアー」を実施する。 → 利益は、文化財の修復・保護に充てる				
	パワハラに存在している文化財を、(1)歴史の時系列、(2)文化財累計、(3)所在地(地域)によって関連付け、サイン計画 → デジタルアーカイブ・システムを活用		都市計画、観光、産業、交通との連携		
見える化 周知	地理的にも時代的にもバラバラで多種多様な文化財をカテゴリに分け、ストーリーでつなぐ				
	ストーリー ← 関連する文化財をまとめる。いろいろな切り口 類型や時代の広さを逆手に取った新求(時代や類型にとらわれず)				
何を整備	-見学したいと思ったときに気軽に現に行ける環境整備(マップ、案内表示、交通手段、休憩所) -他市に学ぶ				
	文化財「見える化する」 -展示スペースを確保し、展示のしかるべきところ(街並みの拠点となる所)に展示し、 -展示し難い所は取り除く。 → 保存と活用(展示)の両立(相違するもの) -年次計画で立案し、それに沿って毎年進めていく				
点を活かす	近隣自治体の事例を参考に、アクセスの向上や滞留が生まれるように都市計画も含めて検討する。 ex. 成田などはどうしているのか?				
	各お祭りに関して各町会との協力のつながりを持ち、課題を考え実行していく。				
点を活かす	定期的な見回りや所有者等との情報交換 → 現状把握				
	「歴史のまち」というブランドイメージを確立する何か…	佐倉限定の特典			
点を活かす	「各地域(出来事)ごとにゴミゼロ運動を行い、指定文化財の展示を行ったりどうか、例えば、点と点の区画を掃除する。 -また、3Dプリンターを利用して大学生に文化財になっている建物、遺跡、美術工芸品、祭礼用具(山車、神輿、唐台)の ガチャをゴミゼロに参加した人に特別に作らどうか。				
	-成果の公開 -展示スペースの活用 -デジタル技術の活用				
点を活かす	効果的な情報発信が一番重要!! (具体的な活用者を想定した「歴史・自然・文化」遺産マップの作成、発信 -コース設定 → 活用 -ガチャの企画 → 活用(保護) -ボランティア窓口情報の掲載 → 保護	市民の参加 「知っている」ハ			
	知ってもらうためのPR方法を考える SNS、YouTube → 誰が発信するか?、おしゃべりすることは大事	ターゲット別の手法	動画が大事		
点を活かす	中高生が情報発信	佐倉学の新スタンプ 中・高校生に向けた、中・高校生が主体となる情報発信・情報提供	コアな子たちで	担い手	
	連携	ボランティア窓口の確立、仕事の仕分け → 学生ボランティア(学校の単位にもなる)、シニアボランティア	仕組み		
点を活かす	市内他部署、民間との連携、情報発信(SMSほか)や財源の確保(クラウドファンディングほか)				
	調査(歴史資料館がベース)	市民の意識調査にもあるように、佐倉のイメージは「城下町と佐倉城」である。佐倉城と城下町については江戸時代の城跡が多数残っており、城の遺構や城下町の町並みなどを知ることが出来る。これらの施設と関連資料、現地を比較、検討することで、その建造物や跡地、沿革を調査し、整備・保存をはかりたい。そのため、市民を含めた調査団を組織し、調査結果を公表して説明会や見学ツアー等も実施することとした。	市民も一緒に調査	調査に参加する为本拠的「価値」を守って活用	
点を活かす	文化財を把握、調査していくための体制づくり -各分野ごとのチーム				
	文化財に関わりたいという想い、ニーズの把握 -文化財所有者へのアテンド、調査の実施(文化財の状況を把握する) -所有者の困りごとを具体的に把握し、継承へ向けた取り組みを活かす	文化財所有者の課題			
点を活かす	建築物の利用方法① -民間団体利用・活用 → 一時的なものなのか?、長期的なものなのか?	旧平井家、旧今井家 -レストラン -飲食店	参画の場		
	建築物の利用方法② -保存の仕方 → 全て残すのか?、内部は自由にするのか?	活用			
点を活かす	情報発信、HP、SNS -文化財の掘り起こし -見える化(文化課)				
	文化財を周知するための現役世代にも届く情報発信を、(認知度の向上) 市:佐倉学でSNS → 先主と子供たちに対して				
点を活かす	文化財の認知度 ①行政が「たまたま」情報発信 = SNS 資料 の市民団体が「たまたま」独自の情報発信				
	文化財看板の設置と更新する。 市が主体となり、実施していく、どこにあるのか(一部寄付も)				
点を活かす	観光客呼び込みのため、文化財を含めた佐倉の魅力を一覧表や旅行会社にテーマを考えて、SNSなどネットを利用し、 情報発信を行う。文化財を含めた観光コースなど	観光客呼び込み → 魅力SNSで発信	散策路	商店街・新町通り 博物館化*ハ	
	点を活かす	点を活かす -点ごとの運動	文化財を現地で見る良さ → 情報誌が全体を統括、保存、情報化、 発信するどよい	サイクルツーリズム、フットパス	
点を活かす	複合的な企画 -点から掘り起こすための文化財(未指定)の掘り起こし -歴史、散策などをつなげる	異なる角度からのアプローチ			
	文化財が点在する地域が多いのでは、 点を活用して周遊を強化 → サイクルツーリズム 次につなげる	サイクルツーリズム			
点を活かす	維持・管理(歴史的建造物:築50年以上)の活用を進める。 ①所有 管理者が充実するうちに継承(家族以外も) ②行政の補助金確保(活用)の方向性、具体策を示す = 収入確保	活用の方角性をサンプルとして			
	拠点となる地域博物館(佐倉市博物館)の設立 -新しい建物はすぐでなく良い、ソフト事業や担い手人材が重要 -学校や公民館も巻き込んで、お寺などの文化財所有者も一緒に「佐倉学」や地域学習のコンテンツプログラムを開発する -文化財を活用する -ます市が予算・人材・体制を	ハコモノは先の課題 → 事業、人材 ※機能的なデジタルアーカイブ	公民館・学校など、連携の中心となるもの	分散型で良い → 拠点となるものを	
点を活かす	誰が? → 自治会	地元で関わる	旧平井家の事業を見学できるように活用 できるはず	産民学をつなげる行政の役割	
	佐倉学の連携方法 佐倉学の脱マンリ化① 「佐倉学」コンテンツの周知(各課→指導課→学校へ) -デジタルアーカイブ、佐倉市広報「アール」				
点を活かす	佐倉学の脱マンリ化② -「体験型学習」に重きを置いて佐倉学の展開(文化課) → 文化課のノウハウを学校に	佐倉学を「楽しい」ものに			
	佐倉学の脱マンリ化③ -「情報発信」の必要性(保護課) → 各課の連携、地域人材の活用				
点を活かす	佐倉学は産学だけ学習ではなく、現地見学会などを積極的に実施する。	学校に人物の掲示はある → 歴史・文化財がある!	外に出る佐倉学	文化財の現地見学会は大事	
	-行政がたまたま情報発信 = HP、SNS等 -学校が次年度中に(人物画像はない)新たな切り口で活用、身近な教材				